

あのいずみホールへ  
ゴーゴー！



アルト 初子  
宮地

友達から電話で「大正区合唱団が出来るとよ」と。大正区にドイツ兵の俘虜収容所があったのは、父からよく聞かされて、知っておりました。

「エツ、あのベートーヴェンの第九を合唱！ワァ大変」と思っても、ポジティブに考え直し、参加させて頂きました。

第九だけだと思っておりましたが、次々と難しい曲が出てきました。

西本先生始め、諸先生方、又、特訓して下さいました。多田先生、ピアノを担当されている、岡林先生、西浦先生、それぞれの先生方は、ご苦労された事でしょう。

なんと、私の様な者でも、第九を暗譜で歌える様になり、淡路島の、第九を歌う会にも参加する事が出来ました。

初めての発表会では、高谷先生の指揮棒を見て歌い、無事に終える事が出来ました。

歌った後の感動、元気で歌える事に感謝、又、引張って下さる皆様にも感謝です。

今年五周年記念です。あのいずみホールへ、ゴー、レッツゴー！

四月からは、アルトの野上先生はじめ、宗教音楽をメインに活動、指導されている、五味先生をお迎えした。五味先生は、風貌とは違う若々しいお声で、ジョークを交え、レクイエムは内容を理解し歌うことに意義があると、指導して頂きました。

さあ、ドレスも決まり、いずみホールへ向けて、がんばろう！  
後になりましたが、コミ協の皆様、そしていつもお世話頂いている役員の皆様には、本当に感謝致しております。

ありがとうございます。

夢に向かつて



ソプラノ 栢菅 節子

いよいよ五周年記念コンサートが、目の前に迫ってきました。

いずみホールでリサイタルをする時、聞いた時は驚きと同時に、喜びに浸りました。

モーツァルトの「レクイエム」全曲に挑戦。大変難しいですが、補講練習も増やしてもらって助かりました。

家では、練習用のCDをONにして、用事をしながら午前中に繰り返し何回も聴く事から始めました。

「モツレク」ちよつと歌ってみたいなア



アルト 井川 里香

「モツレク、歌わへん？」  
始まりは友人のこの一言からでした。

それまでの私は、勤務先の合唱部で二・三年歌っていた程度で、「モツレク」って何？、というレベルでした。

たまたま、「ラクリモーザ」を少し歌っていたことと、映画「アマデウス」のイメージを覚えていた事だけで、ちよつと歌ってみたいな、位のノリで見学の誘いに乗りました。

ところが、見学のつもりがいきなり練習参加となり、練習内容の濃さに驚き、団員の皆さんの熱気に圧倒、魅了されて、休憩中には楽譜を購入し、あつと言う間に友人と共に入団してしま

最近では暗譜が出来たら？という、新たな課題が出来ました。

歌うことの楽しさ、交流の場を与えて下さり、西本先生、諸先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。

いつまでもハートモニーを大切にしながら、合唱団の方たちと心一つに頑張っていくたいです。

宜しくお祈りします。

今、「モツレク」を歌い始めて四ヶ月、毎日一回は「モツレク」を聞き、発声練習もしたりして、私の生活は歌中心に回っています。

合唱初心者の私にとって「モツレク」は、とても難しい曲ですが、練習中、自分の声も含めて一瞬一瞬に「モツレク」は、とても難しい曲です。

昇天しそうなくらい心地良いものです。

記念コンサートでは、全曲通じて、この昇天しそうなゾクゾク感を目指して、残りの練習に励みたいと思います。

最後になりましたが、一つになって歌うことの楽しさを教えて下さった、大正フロイデの皆さんと出会えた事は、私にとって何よりの喜びです。

これからも皆さんと共に歌っていききたいと思えます。

「楽しく」

歌い上げましょう



バス 波多江 寿昭

麓から見たときは、アルプスの高峰らしく見えた「レクイエム」岳の険しい道も、今や八合目あたりでしようか。

この山は「第九」岳とはちがった意味での手ごわい

全員名札をつけましょう！

アルト 大正 歌子

相手のようですが、途中には、「ラクリモーザ」峰のようなくらいお花畑が迎えてくれたりもします。

毎回のレッスンで感心するのは、ピアノの先生の鮮やかなザイルさばきです。

どんな迷路からでも上手に素人登山者を誘導、救出してくれる素晴らしい腕のガイドさんです。

どうして人間にこれほどのことが出来るのだろうと、心ここにあらず、恍惚の人となっている時でした。突然、ラクリモーザ山中にイナビカリが走り出しました。

「アーメンの時ぐらい、楽譜から目を離して、指揮者を見なさい。楽譜とニラメッコをして歌ったって楽しくないでしょう。」と五味先生のお言葉。目が覚めました。

九月四日、五周年記念演奏会の当日、フロイデ合唱団は、どの程度この難曲の楽譜から目を離し、先生の指揮棒を見て歌っているのでしょうか。

フロイデ合唱団の力量は、まうのりです。

みなさん、「楽しく」顔をあげて、歌い上げましょう。